

2008年3月26日

行政改革推進本部事務局 行政改革推進室長殿
行政改革推進本部事務局 行政改革推進室次長殿

総務省行政管理局長殿
総務省行政評価局長殿

財務省主計局長殿

文部科学省事務次官殿
文部科学省官房長殿
文部科学省科学技術・政策局長殿
文部科学省研究振興局長殿

日本学術振興会ナイロビ研究連絡センターの存続に関するお願い

日本霊長類学会
会長 山極寿一

日本霊長類学会は、1985年に霊長類を対象とした学術研究の進展と研究者間の交流を図るために設立され、これまでに多くの成果を挙げるとともに、世界の霊長類学の牽引車の役割を果たしてきました。学会の準機関紙である**Primates**は世界で最初の霊長類学の学術誌として、霊長類学の最新の成果を世界に発信しております。日本の霊長類学者は1950年代よりアフリカ各地で調査を実施しており、これまでにさまざまなアフリカ諸国の学術機関と協力関係を結んできました。アフリカにおける調査研究で博士の学位を取得した日本人研究者も多く、アフリカから日本へ留学して学位を取得する研究者も年々増加しております。日本とアフリカの学術交流は霊長類学を進展させる上で大変重要と考えております。

このたび、2007年12月に「独立行政法人整理合理化計画」が閣議決定されたおりに、日本学術振興会のナイロビ研究連絡センター（以下「ナイロビ・センター」）は、「効率的な業務運営の観点から、独立行政法人評価委員会による評価等を踏まえながら、活動状況の検証に努め、廃止等見直しを検討することになったとうかがいました。アフリカにおける学術の国際交流を推進するために、ナイロビ・センターは非常に重要な任務を担っているとの認識のもとに、その存続を切にお願いいたします。

日本とアフリカの諸関係は、昨今、ますます緊密になり重要性を増しております。たとえば2007年版政府開発援助（ODA）白書では、地球環境問題とともにアフリカの開発支援が重点事項として強調されていますし、日本政府は今年の5月に横浜市で開催される第4回アフリカ開発会議（TICAD）を活用して、国際的なリーダーシップを発揮しようとしております。

ナイロビ・センターは1965年に設立されて以来、とくに東アフリカ諸国と我が国とのあいだの学術に関する国際交流を促進するために、中心的な機能を果たしてきました。わたくしどもは、これまでにナイロビ・センターが果たしてきた重要な役割を高く評価しておりますし、また、将来の日本の国際戦略とアフリカ諸国との学術に関する国際交流、そして日本におけるアフリカ研究の進展のために、ナイロビ・センターは、決定的に重要な役割を担う存在だと認識しております。

以上により、ナイロビ・センターの存続について、格別のご高配をたまわりますよう、お願い申し上げます。